



令和7年度仙台市観光実態調査業務 結果報告書



目次

◆ 調査背景・目的/調査課題	P.3
◆ 調査設計	P.5
◆ 調査フロー・割付条件	P.6
◆ ウェイトバック集計	P.7
◆ 回答者プロフィール	P.8
◆ エグゼクティブサマリー	P.9～
◆ APPENDIX	P.17

報告書内の記述について

※n=30未満は参考値として記載

※「＊」は非聴取項目

調査背景・目的/調査課題

調査背景・目的

- ✓ 仙台市の目的である「市内の経済活性化」＝「仙台を訪れる観光客の消費額の最大化」に向けて、観光指標（仙台観光者の観光消費額等）のデータを定点的に収集し、目標達成に向けた進捗を把握。
- ✓ 同時に、2025年の仙台観光の観光実態等からニーズを理解し、効率的な目標達成に向けた「戦略立案（ターゲット選定や提供価値等）」→「施策実行」のためのヒントを得る。

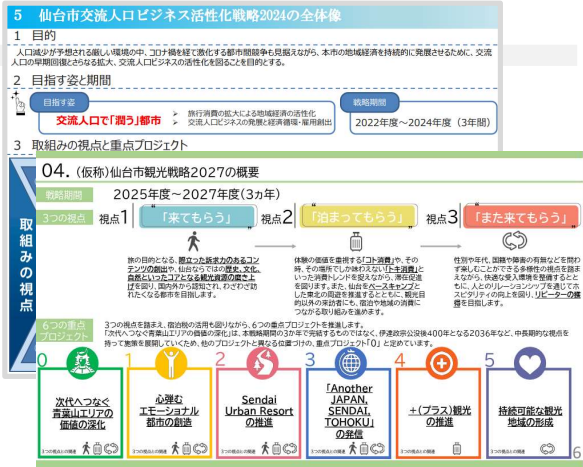
調査課題

観光指標の結果

1.
- ✓ 仙台／東北の観光実績、2025年観光者の評価・・・観光レポート経験、総合満足度、再訪意向、観光消費額など
 - ✓ 仙台市観光戦略と実態の方向性の確認・・・観光回数別の消費額、訪問者・未訪問者の市場ボリュームなど

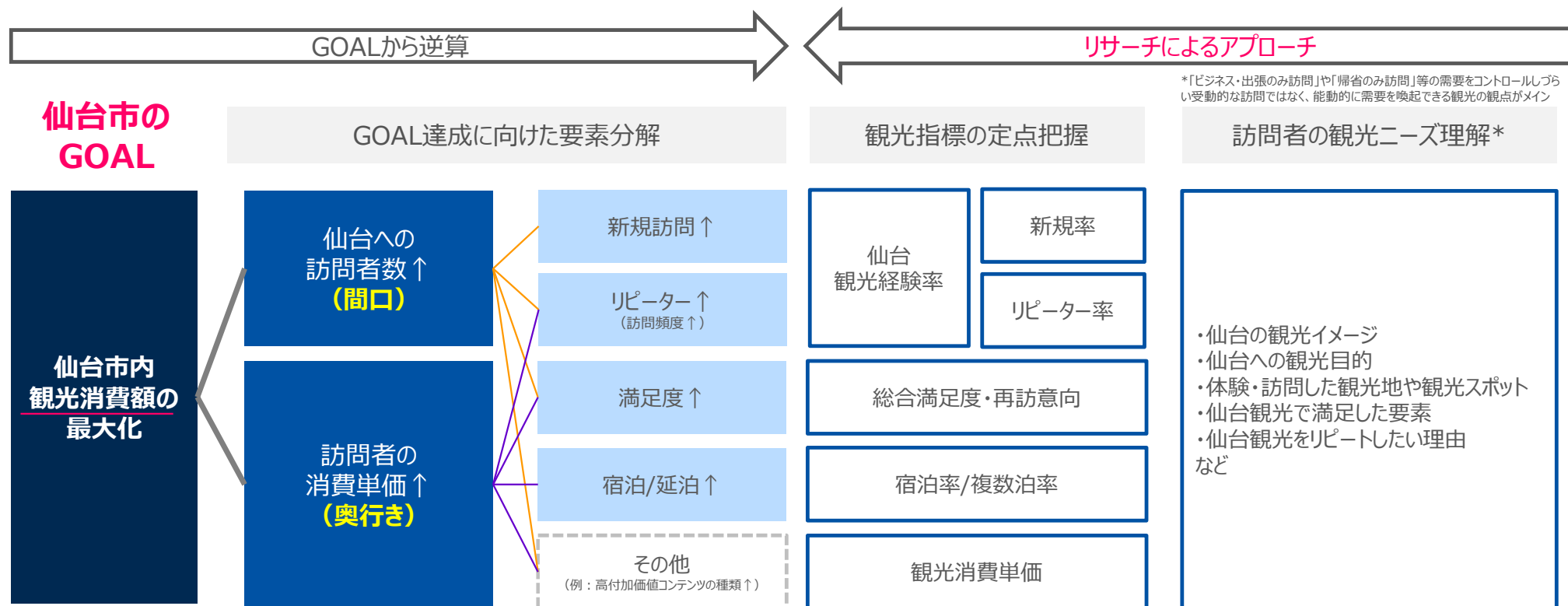
仙台観光経験別の実態

2.
- ✓ 属性情報や観光実態・・・性・年代、未婚、仙台観光時の目的、仙台観光時の宿泊した場所など
 - ✓ 観光実態の詳細・・・訪れた観光スポット、体験した観光資源（グルメ・イベント）、仙台以外で訪問した地域など
 - ✓ 再訪理由／目的・・・また仙台へ観光したい理由、次に仙台に観光するときの目的



【参考】仙台市観光実態調査の立て付けイメージ

✓ 「観光消費額の最大化」に影響する要素(≒観光指標)をデータで可視化すると同時に、訪問者の観光ニーズから戦略立案・施策実行のヒントを得る。



過去調査からの学び (抜粋)

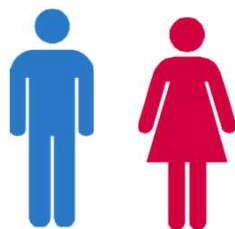
効率的なGOAL達成には、「Who×What」の整理が必要

- ✓ **Who** : 消費額の最大化に向けて、仙台に優先的に訪問してもらうべき人は「誰か」
 - …リピーターは消費単価が高いため、リピーター育成は重要
- ✓ **What** : 優先的に訪問してもらいたい人に提供する仙台観光の価値は「何か」
 - …リピーターはグルメ・温泉の体験や東北周遊旅行に価値を感じる

整理に向けて考慮すべきセグメントは「エリア（居住地）」

- ✓ エリアによって観光指標の傾向や仙台観光ニーズが大きく異なる
 - …消費単価は相対的に低い、再訪意向が高い近隣（東北・関東）
 - ⇔消費単価は相対的に高い、再訪意向が低い遠方（北海道・中部以西）
 - …観光客のマーケットシェアと観光消費額の高さから、東北・一都三県がターゲット

調査設計



調査手法 : オンライン定量調査

調査対象 : マクロミルモニタ 男女20-79歳

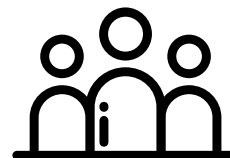
調査会社 : 株式会社マクロミル

調査時期 : 2026年1月8日～1月19日

調査地域 : 北海道 / 東北+新潟※仙台市除く /
北関東 / 一都三県 / 中部 / 関西 /
中国 / 九州

※ 2019年の仙台流入宿泊者数の情報を参考に、
一部地域は対象地域を流入数の多い県に限定。

- ・中部 : 長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
- ・関西 : 京都府・大阪府・兵庫県
- ・中国 : 岡山県・広島県
- ・九州 : 福岡県・長崎・熊本



対象者条件/サンプルサイズ（スクリーニング調査 ※以下「SCRJ」）

人口を調査地域×性年代構成比にあわせて
20,000ssで分析

対象者条件/サンプルサイズ（本調査）

2025年1月-12月に仙台に訪問した人を
調査地域×性年代構成比率にあわせて2,098ssで分析

調査票URL （パスワード : 5YfcUp&M）

<SCR>

<https://www.macromill.com/airs/exec/smartPvRLAction.do?rid=1305158&k=0a292e0a51>

<本調査>

<https://www.macromill.com/airs/exec/smartPvRLAction.do?rid=1305277&k=fbbf1bc4b9>

調査フロー・割付条件

SCR

調査対象：対象エリア*の男女20-79歳
サンプルサイズ：20,000サンプル

- 割付設定：居住地×性別×年代で区分し、各セル「令和2年度の国勢調査の人口構成比」に基づいて回収

	男性20-29歳	男性30-39歳	男性40-49歳	男性50-59歳	男性60-79歳	女性20-29歳	女性30-39歳	女性40-49歳	女性50-59歳	女性60-79歳	計
北海道	59	70	93	86	174	57	70	96	93	207	1,005
宮城県	13	17	22	19	43	12	16	21	19	45	227
東北+新潟	88	112	148	142	305	80	107	142	143	334	1,601
北関東	83	98	130	114	228	72	89	120	110	241	1,285
一都三県	534	596	751	673	1,025	520	570	720	637	1,112	7,138
中部	216	249	325	291	522	198	231	309	283	568	3,192
関西	215	230	308	281	496	220	237	321	296	572	3,176
中国	57	65	85	72	147	55	63	84	75	164	867
九州	95	113	139	122	254	97	117	145	134	293	1,509
計	1,360	1,550	2,001	1,800	3,194	1,311	1,500	1,958	1,790	3,536	20,000

SCR調査の回答結果から、指定条件に合致した人（2025年の仙台訪問者）を抽出

本調査

調査対象：条件に合致する対象エリア*の男女20-79歳
サンプルサイズ：2,098サンプル

- 割付設定：居住地×性別×年代で区分し、各セルはエリアごとに「令和2年度の国勢調査の人口構成比×指定条件の出現率」に基づいて回収

	男性20-29歳	男性30-39歳	男性40-49歳	男性50-59歳	男性60-79歳	女性20-29歳	女性30-39歳	女性40-49歳	女性50-59歳	女性60-79歳	計
北海道	16	23	21	18	39	18	12	13	13	38	211
宮城県	11	21	20	17	41	12	14	20	16	39	211
東北+新潟	26	30	41	36	64	36	33	41	40	70	417
北関東	14	24	20	23	33	17	13	18	13	34	209
一都三県	54	43	51	40	55	40	32	31	23	47	416
中部	30	25	13	17	41	16	12	12	11	34	211
関西	27	21	23	20	34	17	12	11	13	32	210
中国	4	15	14	11	23	10	5	6	6	12	106
九州	4	15	16	10	23	10	8	6	6	9	107
計	186	217	219	192	353	176	141	158	141	315	2,098

ウェイトバック集計

- ✓ 本調査の各セルの回収数の合計値は、「2025年の仙台訪問経験者全体」の母集団構成比を表現していないため、SCRの回答結果から目標構成比(=母集団構成比)を算出し、ウェイトバック集計(WB集計)を実施。
※WB集計は、回収されたサンプル(標本)を母集団の市場構成比に合わせて補正する方法を指す。

■ WB前n数

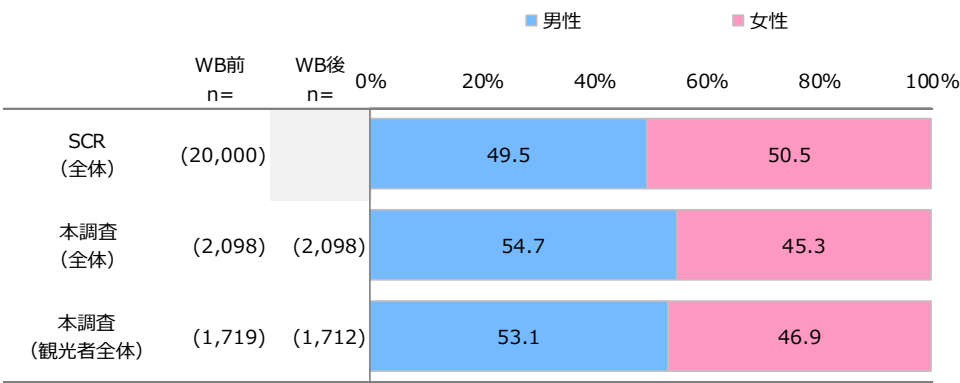
	男性20-29歳	男性30-39歳	男性40-49歳	男性50-59歳	男性60-79歳	女性20-29歳	女性30-39歳	女性40-49歳	女性50-59歳	女性60-79歳
北海道	16	23	21	18	39	18	12	13	13	38
宮城県	11	21	20	17	41	12	14	20	16	39
東北+新潟	26	30	41	36	64	36	33	41	40	70
北関東	14	24	20	23	33	17	13	18	13	34
一都三県	54	43	51	40	55	40	32	31	23	47
中部	30	25	13	17	41	16	12	12	11	34
関西	27	21	23	20	34	17	12	11	13	32
中国	4	15	14	11	23	10	5	6	6	12
九州	4	15	16	10	23	10	8	6	6	9
計	186	217	219	192	353	176	141	158	141	315

■ WB後n数

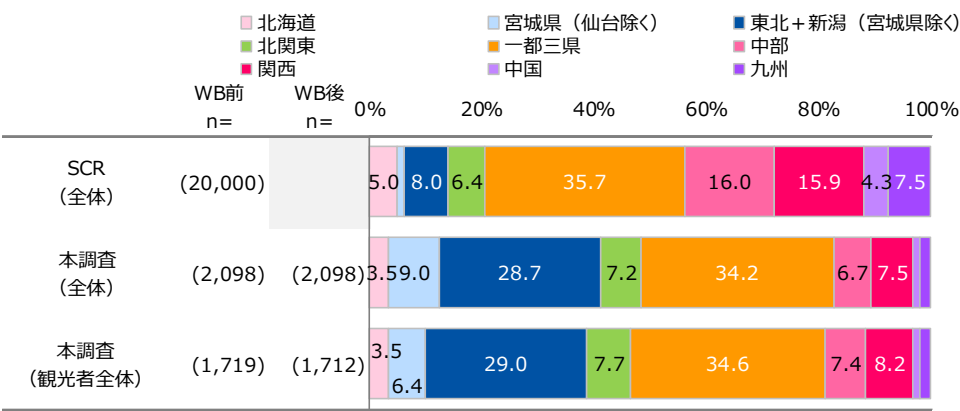
	男性20-29歳	男性30-39歳	男性40-49歳	男性50-59歳	男性60-79歳	女性20-29歳	女性30-39歳	女性40-49歳	女性50-59歳	女性60-79歳
北海道	8	5	7	6	14	7	4	4	4	13
宮城県	13	15	18	15	37	11	12	18	14	35
東北+新潟	38	43	58	52	94	52	48	58	58	101
北関東	15	12	15	16	24	12	9	13	9	25
一都三県	93	74	89	69	94	68	56	53	40	81
中部	23	14	8	11	28	11	8	8	7	23
関西	20	16	18	15	26	12	8	8	9	25
中国	2	4	2	3	6	3	1	2	1	3
九州	4	4	5	4	9	4	3	2	2	3
計	217	189	220	190	332	179	149	167	146	309

回答者プロフィール

性別

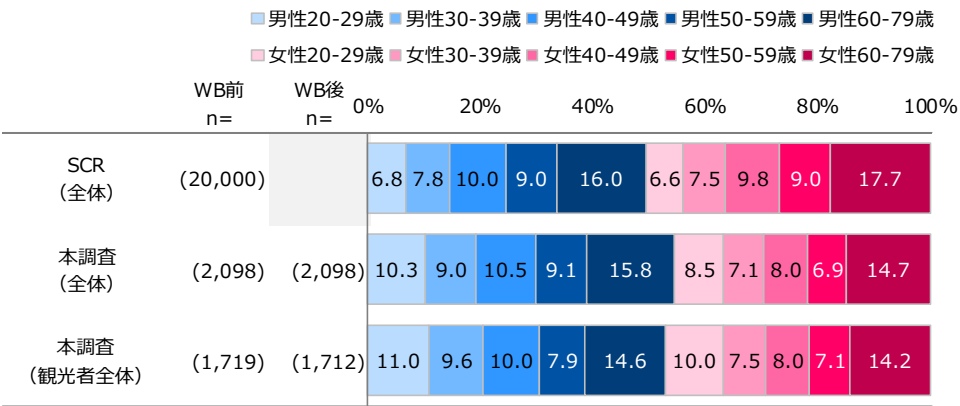


居住地

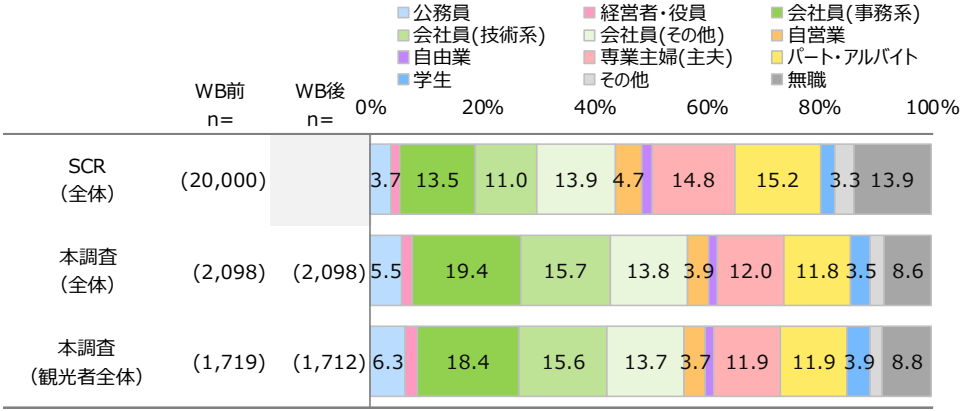


※3%未満のスコア非表示

性年代別



職業



※3%未満のスコア非表示

エグゼクティブサマリー

総括

1. 全国の宿泊数は減少。ただし仙台市では増加傾向。

各種統計データより、**全国の国内宿泊数は前年を下回り**、日本人の「宿泊旅行市場」の成長・回復は停滞傾向。ただし、**仙台市の宿泊者数は増加傾向**で、インバウンド増加等の背景から**地方分散の可能性**。全国「旅行消費単価」は増加傾向であるものの、前年比はやや鈍化傾向。**“物価高”などの影響**が考えられ、今後の動向の注視が必要か。

2. 仙台観光の「リピーター率」は上昇、「再訪意向」に課題

「リピーター率」は前回調査から**上昇**。前回までの総合満足度増加傾向の結果だと考えられる。ただし今回の**再訪意向は減少**しており、かつリピーター層で減少が生じているため、次回以降のリピーター率は注視。「訪問・観光経験」や「総合満足度」には大きな変化はみられなかった。

3. 仙台・東北の観光消費額が減少。宿泊率や、ショッピング費等での減少が生じた。

今回調査では前回調査から**仙台観光消費額が減少**、**東北観光消費額でも減少**がみられた。仙台・東北ともに**宿泊率も減少**したが、観光消費額を費目別でみると宿泊費だけでなく**ショッピング費等で減少**。物価高の中で消費抑制が生じている状況か。仙台観光消費額の減少は宿泊層よりも**日帰り層**で大きく、日帰り層内ではショッピング費減少の影響が大きい。宿泊率減少・日帰り率増加の状況だが、消費額を上げるために、**宿泊率向上**が必要。
(広域観光を推進し宿泊日数を増やす、ナイトコンテンツを推進し日帰りを宿泊にする等)
なお、観光消費額はリピーター（特に4回以上）で高いため、引き続き**リピーター育成**は重要。

国内旅行市場の動向

各外部データを含めて整理しているが、データごとの仕様（データ取得方法等）によって傾向は異なるため、“各データごとに時系列で推移を把握”し、複数の外部データを踏まえて総合的なトレンドを解釈

各種統計より、日本人の全国の「宿泊旅行市場」成長・回復は引き続き鈍化傾向。宿泊旅行の鈍化は消費者物価指数から読み取れる“物価高”などが一因と思われる。一方で仙台市の宿泊者数は増加傾向がみられた。

また、国内観光に全く行かない層のボリュームは2022年から増加が続いており、引き続き今後の動向を注視。

各調査結果より

※()内は前年比
※2025年は速報値

2025年トピックおよび仮説

2025年

旅行・観光消費動向調査より

✓ 旅行消費額：48,359円（104%）

仙台市観光実態調査より

- ✓ 仙台市内観光消費額：34,702円（94%）↓
- ✓ 2-3か月に1回以上観光者ボリューム：16.6%
- ✓ 年に1回以上観光者ボリューム：56.0% ↓

宿泊旅行統計調査より ※日本人で集計

<全国>

- ✓ 延べ宿泊数：47,561万人泊（96%）↓
- ✓ 実宿泊者数：36,057万人（98%）↓

仙台市観光統計基礎データより ※日本人で集計

<仙台市>

- ✓ 宿泊者数：606万人（102%）↑

2024年

旅行・観光消費動向調査より

✓ 旅行消費額：46,585円（106%）

仙台市観光実態調査より

- ✓ 仙台市内観光消費額：36,771円（105%）
- ✓ 2-3か月に1回以上観光者ボリューム：16.8%
- ✓ 年に1回以上観光者ボリューム：56.7%

宿泊旅行統計調査より ※日本人で集計

<全国>

- ✓ 延べ宿泊数：49,460万人泊（99%）
- ✓ 実宿泊者数：36,966万人（99%）

仙台市観光統計基礎データより ※日本人で集計

<仙台市>

- ✓ 宿泊者数：596万人（105%）

- ✓ 2025年の物価指数は2020年比で112%
- ✓ 全国の旅行消費額は2020年以降最高額となったが、観光実態調査では、仙台市内の観光消費額は2024年から減少。
- ✓ 全国の延べ宿泊数は2024年から減少。一方で、仙台市の宿泊者数は増加。
- ✓ 観光実態調査から、2-3か月に1回以上観光者のボリュームは前年維持、年に1回以上観光者のボリュームは微減傾向。「国内の観光には全く行かない」層のボリュームも増加傾向。

【旅行実態の仮説】

- ✓ コロナ後の旅行リベンジ傾向の落ち着き
- ✓ 物価高の影響もあり、旅行・観光や支出の慎重化
- ✓ インバウンド増加等の背景から主要都市が避けられ、地方分散の可能性

2026年も物価高が続く場合は、上記の観光トレンドも継続する可能性があるとの仮説

観光指標の振り返り

※分析者の主観を交えた解釈・考察を含む

「リピーター率」の増加はポジティブな結果。ただし、再訪意向には減少がみられた。満足度は増加していないが、仙台観光満足者の満足要素としては観光地・街並み・自然環境等で減少が生じており、気候・自然現象など外部要因の可能性も考えられる。また、物価上昇の中でも観光消費額は2024年→2025年で減少し、消費抑制等が生じている可能性に留意。

		過去経験（直近1年に限定しない）		2025年 1年間の実態 ※観光者ベース（年間訪問率除く）					
		市場全体における観光経験率	観光リピーター/観光経験者	市場全体における25年訪問率	1人あたり消費額				
		観光経験率	リピーター率	年間訪問率	総合満足度（TOP2）	再訪意向（TOP2）	観光消費額	宿泊率	複数宿泊率
仙台	2025年	24.5%	55.3%	5.8%	76.0%	58.6%	34,702円	71.3%	23.4%
	2024年	24.5%	54.0%	6.0%	77.4%	62.8%	36,771円	73.3%	24.1%
	2023年	25.3%	52.9%	5.9%	76.0%	63.0%	34,889円	76.1%	23.5%
	2022年	26.1%	54.7%	5.3%	72.2%	63.0%	31,690円	71.0%	26.4%
東北	2025年	34.4%	74.9%	10.9%	72.9%	65.6%		90.4%	58.1%
	2024年	34.0%	73.9%	11.1%	75.5%	69.9%		93.5%	61.5%
	2023年	35.0%	72.0%	10.7%	74.1%	66.7%			

※東北＝仙台＋東北周遊観光

※東北：仙台以外の東北訪問者ベース

2025年トピック	- 訪問経験率の減少が続く地域も多い中で、仙台／東北地方は2024年同水準の観光経験率を維持。 - 仙台・東北ともに2023年～2025年でリピーター率が増加傾向。	年間訪問率に大きな変化はみられないが、訪問者構成（観光者に限定）をみると、2023年～2025年で仙台観光経験2回以上のリピーター割合が増加傾向。 - 仙台・東北ともに2024年→2025年で再訪意向が減少。内訳をみると、仙台再訪意向の減少はリピーター層で発生している。 - 仙台観光1回のみ層は再訪意向理由として「まだ行ったことのない東北の他地域を訪れたい」というニーズが強い。そのため、東北まで広げた広域観光の促進がリピーター獲得に向けて重要な可能性。	- 観光消費額は2024年→2025年で減少。内訳をみると、「市内の交通費」を除くすべての項目で減少が生じた。 - 消費額へは宿泊費の影響が大きく、宿泊率の減少が要因の一つとして考えられるが、その他ショッピングや娯楽費の減少も大きい。 - 物価上昇（前述の「国内旅行市場の動向」結果参照）の状況を受けて、観光消費の抑制が生じている可能性も考えられる。
-----------	--	---	---

リピーター率は増加した一方で、再訪意向に減少がみられていることから、次回以降のリピーター率の変化を注視していく必要があると考えられる。

【参考】＜仙台＞観光指標の振り返り（居住地別）

		過去経験（直近1年に限定しない）				2025年 1年間の実態 ※観光者ベース（年間訪問率除く）																	
		観光経験率		リピーター率		年間訪問率		総合満足度（TOP2）		再訪意向（TOP2）		観光消費額		宿泊率		複数宿泊率							
		n=		n=		n=		WB前n=WB後n=		WB前n=WB後n=		WB前n=WB後n=		WB前n=WB後n=		WB前n=WB後n=		WB前n=WB後n=		WB前n=WB後n=			
北海道	2025年	(1005)		20.7%	(208)	53.8%	(1005)	4.0%	(172)	(60)	77.5%	(172)	(60)	49.5%	(172)	(60)	58,941円	(172)	(60)	85.5%	(172)	(60)	35.3%
	2024年	(1005)		21.1%	(212)	50.5%	(1005)	3.5%	(172)	(60)	75.9%	(172)	(60)	56.5%	(172)	(60)	48,868円	(172)	(60)	91.3%	(172)	(60)	38.8%
宮城県（仙台除く）	2025年	(227)		34.4%	(78)	94.9%	(227)	46.3%	(124)	(110)	71.4%	(124)	(110)	68.8%	(124)	(110)	24,535円	(124)	(110)	47.8%	(124)	(110)	10.1%
	2024年	(227)		27.3%	(62)	93.5%	(227)	44.1%	(117)	(106)	73.4%	(117)	(106)	68.1%	(117)	(106)	22,676円	(117)	(106)	42.9%	(117)	(106)	8.6%
東北+新潟（宮城県除く）	2025年	(1601)		48.6%	(778)	84.7%	(1601)	20.1%	(343)	(496)	72.3%	(343)	(496)	64.7%	(343)	(496)	28,285円	(343)	(496)	59.7%	(343)	(496)	11.9%
	2024年	(1601)		49.4%	(791)	85.8%	(1601)	22.8%	(328)	(470)	75.3%	(328)	(470)	72.9%	(328)	(470)	32,926円	(328)	(470)	65.8%	(328)	(470)	17.1%
北関東	2025年	(1285)		36.7%	(472)	62.5%	(1285)	7.9%	(181)	(131)	79.2%	(181)	(131)	55.9%	(181)	(131)	39,143円	(181)	(131)	75.0%	(181)	(131)	18.8%
	2024年	(1285)		34.7%	(446)	59.2%	(1285)	6.7%	(182)	(132)	78.6%	(182)	(132)	64.8%	(182)	(132)	34,335円	(182)	(132)	78.6%	(182)	(132)	20.5%
一都三県	2025年	(7138)		30.7%	(2189)	51.9%	(7138)	5.7%	(344)	(593)	77.6%	(344)	(593)	56.7%	(344)	(593)	34,801円	(344)	(593)	77.6%	(344)	(593)	31.1%
	2024年	(7138)		30.6%	(2184)	50.0%	(7138)	5.8%	(343)	(614)	79.6%	(343)	(614)	59.7%	(343)	(614)	38,888円	(343)	(614)	77.6%	(343)	(614)	28.4%
中部	2025年	(3192)		16.3%	(520)	33.8%	(3192)	2.3%	(188)	(126)	76.7%	(188)	(126)	51.3%	(188)	(126)	35,756円	(188)	(126)	79.2%	(188)	(126)	27.1%
	2024年	(3192)		16.2%	(518)	37.3%	(3192)	2.4%	(187)	(120)	75.9%	(187)	(120)	49.1%	(187)	(120)	39,209円	(187)	(120)	79.5%	(187)	(120)	25.6%
関西	2025年	(3176)		13.5%	(428)	42.8%	(3176)	2.6%	(188)	(141)	80.9%	(188)	(141)	53.6%	(188)	(141)	42,994円	(188)	(141)	81.8%	(188)	(141)	33.0%
	2024年	(3176)		14.6%	(465)	37.6%	(3176)	2.5%	(182)	(118)	79.2%	(182)	(118)	54.3%	(182)	(118)	44,006円	(182)	(118)	82.7%	(182)	(118)	32.5%
中国	2025年	(867)		9.2%	(80)	33.8%	(867)	1.3%	(90)	(23)	79.5%	(90)	(23)	46.7%	(90)	(23)	35,080円	(90)	(23)	87.0%	(90)	(23)	33.0%
	2024年	(867)		10.5%	(91)	36.3%	(867)	1.8%	(89)	(23)	79.5%	(89)	(23)	52.8%	(89)	(23)	42,499円	(89)	(23)	83.9%	(89)	(23)	39.2%
九州	2025年	(1509)		9.3%	(141)	31.9%	(1509)	1.2%	(89)	(33)	78.8%	(89)	(33)	50.1%	(89)	(33)	62,380円	(89)	(33)	82.2%	(89)	(33)	35.9%
	2024年	(1509)		8.9%	(135)	34.8%	(1509)	1.6%	(89)	(34)	73.9%	(89)	(34)	49.9%	(89)	(34)	45,989円	(89)	(34)	81.7%	(89)	(34)	38.0%

【参考】＜東北＞観光指標の振り返り（居住地別）

		過去経験（直近1年に限定しない）				2025年 1年間の実態 ※観光者ベース（年間訪問率除く）														
		観光経験率		リピーター率		年間訪問率		総合満足度（TOP2）		再訪意向（TOP2）		観光消費額		宿泊率		複数宿泊率				
		n=		n=		n=		WB前n=WB後n=		WB前n=WB後n=				WB前n=WB後n=		WB前n=WB後n=				
北海道	2025年	(1005)	27.1%	(272)	65.8%	(1005)	5.6%	(128)	(44)	73.2%	(128)	(44)	58.0%		(128)	(44)	98.8%	(128)	(44)	70.3%
	2024年	(1005)	28.4%	(285)	70.5%	(1005)	6.2%	(120)	(42)	74.2%	(120)	(42)	66.6%		(120)	(42)	98.3%	(120)	(42)	71.5%
宮城県（仙台除く）	2025年	(227)	61.7%	(140)	90.7%	(227)	48.5%	(78)	(68)	65.1%	(78)	(68)	74.1%		(78)	(68)	72.1%	(78)	(68)	51.6%
	2024年	(227)	58.6%	(133)	95.5%	(227)	44.9%	(74)	(67)	64.8%	(74)	(67)	65.0%		(74)	(67)	77.2%	(74)	(67)	35.3%
東北+新潟（宮城県除く）	2025年	(1601)	59.4%	(951)	92.8%	(1601)	32.3%	(187)	(270)	67.9%	(187)	(270)	68.5%		(187)	(270)	84.5%	(187)	(270)	40.1%
	2024年	(1601)	59.3%	(950)	91.1%	(1601)	35.0%	(184)	(264)	74.0%	(184)	(264)	75.0%		(184)	(264)	88.0%	(184)	(264)	50.1%
北関東	2025年	(1285)	51.1%	(657)	81.0%	(1285)	17.5%	(140)	(102)	70.3%	(140)	(102)	64.3%		(140)	(102)	94.9%	(140)	(102)	54.4%
	2024年	(1285)	47.9%	(616)	83.6%	(1285)	13.9%	(121)	(88)	76.2%	(121)	(88)	72.0%		(121)	(88)	93.5%	(121)	(88)	56.4%
一都三県	2025年	(7138)	44.0%	(3144)	77.6%	(7138)	12.8%	(229)	(395)	76.4%	(229)	(395)	67.7%		(229)	(395)	91.7%	(229)	(395)	63.7%
	2024年	(7138)	42.9%	(3063)	76.7%	(7138)	12.8%	(230)	(412)	79.1%	(230)	(412)	72.1%		(230)	(412)	96.5%	(230)	(412)	67.8%
中部	2025年	(3192)	24.2%	(773)	57.1%	(3192)	5.3%	(142)	(96)	78.1%	(142)	(96)	57.9%		(142)	(96)	97.4%	(142)	(96)	64.3%
	2024年	(3192)	23.1%	(737)	57.8%	(3192)	5.8%	(145)	(93)	72.4%	(145)	(93)	60.0%		(145)	(93)	97.2%	(145)	(93)	64.8%
関西	2025年	(3176)	20.2%	(643)	61.3%	(3176)	4.4%	(142)	(106)	74.2%	(142)	(106)	59.8%		(142)	(106)	95.8%	(142)	(106)	74.1%
	2024年	(3176)	21.3%	(677)	54.5%	(3176)	5.0%	(145)	(95)	73.7%	(145)	(95)	64.7%		(145)	(95)	99.3%	(145)	(95)	74.5%
中国	2025年	(867)	12.5%	(108)	49.1%	(867)	2.3%	(69)	(18)	70.7%	(69)	(18)	60.7%		(69)	(18)	94.6%	(69)	(18)	75.2%
	2024年	(867)	14.5%	(126)	51.6%	(867)	3.2%	(73)	(19)	77.3%	(73)	(19)	52.4%		(73)	(19)	97.3%	(73)	(19)	73.2%
九州	2025年	(1509)	12.1%	(183)	53.6%	(1509)	2.1%	(75)	(27)	77.9%	(75)	(27)	56.1%		(75)	(27)	98.9%	(75)	(27)	69.5%
	2024年	(1509)	14.2%	(215)	51.2%	(1509)	2.6%	(76)	(29)	77.1%	(76)	(29)	64.7%		(76)	(29)	97.9%	(76)	(29)	76.5%

仙台観光消費額 まとめ

※分析者の主観を交えた解釈・考察を含む

結果抜粋

- ✓ 仙台観光の1回のみ/2-3回層では観光消費額に違いはみられないが、特に11回以上層では4万円弱と顕著に高い。
- ✓ 仙台観光消費額は2024年→2025年で減少したが、費目別にみると「市内の交通費」は微増、その他の費目は減少。
- ✓ 居住地別でみると、人数ボリュームの大きい東北・一都三県や、中部、関西、中国で減少。「娯楽等サービス費」「ショッピング・買い物代」「その他」での減少が大きい傾向。
- ✓ 宿泊有無では宿泊層よりも日帰り観光層の消費額減少が大きく、特に「ショッピング・買い物代」費目で減少。
- ✓ 仙台観光の1回のみ層では消費額の変化はほとんどみられず、リピーター層で減少が生じている。
- ✓ 東北は日帰り観光や4回以上のリピーターボリュームが大きく、観光目的や観光イメージとして「ショッピング」が高く挙がる傾向が特徴的。

総括

- ✓ 今回調査の結果では、リピーターの中でも仙台観光回数2-3回の層は1回のみ層と仙台観光消費額の大きな違いはみられないため、観光消費額増加の観点では、**4回以上のリピート**を促進することが有効な可能性。特に11回以上層の観光消費額が大きく、**リピーター育成が重要**。
- ✓ 日帰り層の消費額減少が大きく、宿泊率減少・日帰り率増加傾向の状況から、全体の消費額が減少していると考えられる。
- ✓ 人数ボリュームも大きく、仙台観光消費額の減少がみられる東北について、観光目的として「ショッピング」が他地域と比較して顕著に高いが、「ショッピング・買い物代」の消費額が減少。物価上昇の中、東北からの**ショッピング目的の観光者も消費を控えている可能性**が考えられる。

東北観光消費額 まとめ

※分析者の主観を交えた解釈・考察を含む

結果抜粋

- ✓ 仙台観光者の東北周遊割合は2024年→2025年で大きな変化はみられない。
(居住地別では北関東で増加傾向。)
- ✓ 一方で、東北宿泊率は2ヶ年で減少。仙台観光回数別でみると、特にリピーター層での減少がみられた。
- ✓ 東北観光消費額は仙台観光消費額と同様、2024年→2025年で減少、費目別では「飲食費」「宿泊費」「娯楽等サービス費」「ショッピング・買い物代」で減少。
- ✓ 居住地別でも仙台観光消費額と概ね同傾向で、人数ボリュームの大きい東北・一都三県や、中部・関西で減少。
費目別では東北の「ショッピング・買い物代」や、一都三県・関西の「飲食費」「宿泊費」の減少が目立った。
- ✓ 仙台観光回数別では、1回のみ層でも減少がみられるものの、リピーター層の減少幅が大きい。
リピート層の消費額をみると、2-3回層と比較して4回以上層の消費金額が大きく、11回以上層は特に「娯楽等サービス費」「ショッピング・買い物代」を中心に消費額が大きい。

総括

- ✓ 2ヶ年での東北周遊割合に大きな変化はなかったが、仙台観光1回のみ層のうち再訪意向者では再訪意向理由として「まだ行ったことのない東北の他地域を訪れたい」というニーズがみられたため(P.34参照)、今後**仙台観光1回のみ層の東北周遊を促進**することで、東北周遊の活性化につながる可能性が考えられる。
- ✓ リピーター層での宿泊率減少や、東北居住者のショッピング費減少、一都三県・関西の飲食費・宿泊費減少から、ここでも**物価上昇の中での消費抑制可能性**がみられる。
- ✓ 東北観光消費額も仙台観光4回以上層で大きいため、**リピーター育成は重要**といえる。

APPENDIX

統計データに関する補足

✓ **旅行・観光消費動向調査（観光庁）** https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/shohidoko.html

調査対象：日本国内居住者であり、住民基本台帳をもとに無作為に抽出した約2万6000人を対象とした調査

調査時期：4月、7月、10月、1月

調査方法：報告者に郵送で調査票を送付し、報告者が自計記入し、郵送で回収

✓ **宿泊旅行統計調査（観光庁）** https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/shukuhakutokei.html

調査対象：統計法第27条に規定する事業所母集団データベース（総務省）を基に、国土交通省観光庁で補正を加えた名簿から、標本理論に基づき抽出されたホテル、旅館、簡易宿所、会社・団体の宿泊所など。

調査時期：毎月の報告を翌月の中旬まで

調査方法：郵送（又はオンライン）

✓ **仙台市観光統計基礎データ（仙台市）** <https://www.city.sendai.jp/kankokikaku/toukei/toukei.html>

調査対象：仙台市内の宿泊施設・観光施設の事業者

調査時期：前年分を2月下旬まで

調査方法：WEB回答フォーム、郵送、ファクス



Build your Data Culture